

日 時：平成19年6月21日（木）  
場 所：国土交通省11階特別会議室

交通政策審議会  
第10回航空分科会  
議 事 録

国 土 交 通 省

## 目 次

1. 開 会	1
2. 今後の空港及び航空保安施設の整備及び運営に関する方策について（答申案）	1
3. 閉 会	8

## 開 会

### ●航空企画調査室長

大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから航空分科会を開催させていただきます。委員の皆様方におかれましては、大変お忙しいところをお集まりいただきましてまことにありがとうございます。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきたいと存じます。テーブルの上に置いてございますが、配席図、議事次第、クリップを外していただきますと、配付資料一覧がございます。次が資料1委員の皆様方の名簿、資料2審議経過、資料3答申素案に対するご意見募集の結果、資料4答申(案)、最後は参考資料でございます。抜けているもの等ございましたら事務局のほうに随時おっしゃっていただければと存じます。

それでは、議事に入らせていただきます。

恐れ入りますが、報道関係者の方々、頭取りはここまでとさせていただきますので、カメラ撮りはこれ以降ご遠慮をお願いします。

それでは分科会長、本日の議事につきましてよろしくお願ひ申し上げます。

今後の空港及び航空保安施設の整備及び運営に関する方策について(答申案)

### ●分科会長

それでは、本日もよろしくお願ひいたします。

早速でございますが、議事に入らせていただきます。今日の議題は1本で、航空分科会の答申案ということになっております。前回、5月31日の分科会におきまして、事務局のほうから答申の素案が提出されまして、これに対するご意見をいただきました。今日は、これらのご意見を踏まえて、事務局から最終的な答申案が示されておりますので、まず、事務局からご説明していただいた後に質疑応答をお願ひいたします。

それでは、事務局のほうからご説明をお願ひいたします。

事務局より「今後の空港及び航空保安施設の整備及び運営に関する方策について(答申案)」の説明

### ●分科会長

どうもありがとうございました。

ということで、前回いただきましたご意見は、かなり忠実に反映していただいているということかと思えます。

それでは、質疑応答をお願ひしたいと思えます。今日、なるべく最終回にしたいと思っておりますので、今回の答申案につきまして、ご感想や今後の進め方に関するご要望を含めて、よろしくご発言をお願ひいたします。

それでは、どなたからでも結構でございますので、よろしくお願ひいたします。

### ●委員

感想を申し述べさせていただきますと、内容については、前回までの議論を取り込んで

いただいて、また、今、この時点で空港、航空が必要とすべき措置について、正しい方向で書かれているというふうに考えております。

特に、社会資本整備重点計画の問題もありますし、それから空港自体も曲がり角にきているというような意識を皆さんがお持ちで、もう一つ、国際拠点空港の民営化というもの、だんだんと視野に入ってきたということもありますし、そういったことを総合的に考えると、今回のこの出された答申、我々が出した答申ですけれども、書かれたことが正しい方向であるというふうに考えています。特に、空港の整備が概成してきた中で、まさに、副題にありますけれども、戦略的にどういうふうに航空政策をつくっていくか、そのインフラとしての空港に言及しているところが重要かというふうに思っております。

成田とそれから中部と関西についても、一定の方向が出たということですし、それから特に、関西の3つの空港を将来的にどういうふうによく使っていくのかという問題、それから首都圏の空港の役割分担という問題、こういった問題も具体的になってくると思いますけれども、一定の方向が示されているというふうに思っています。

やっぱり最後に、空港制度そのものの改編というものを具体的にどう進めるのかというもう一步進んだところの議論が必要だということで、最後、松本室長のほうからご説明がありましたけれども、次のステップにつなげるような記述になっている。再度申し上げますけれども、これを、確実に進めていただきたいということを申し上げて私の感想とさせていただきます。どうもありがとうございました。

#### ●委員

おとといタイから帰ってきました、朝早かったんですけども、やはりこれからアジアのゲートウェイとして日本の拠点空港を考えていくのならば、もう少し日本の文化とか、または、もっと使いやすい環境づくりを、もう以前からずっとこれは話をしていますので、おそらくこの中にたくさん盛り込まれていると思うんですけども、タイの空港が、向こうも私たちはアジアのゲートウェイであるというふうな言い方で一緒に頑張っていってやるんですけども、実につまらない空港に今度なってしまったのは、1階、2階は楽しいんです、オープンしたときは入っていくと、タイの長い、こういう舟があって、そこには昔からのタイ人のすてきな民族衣装でのお人形さんがずっと置いてあって、右へ行っても左へ行っても全部、一番中心部のところにはデューティフリーでは世界の有名ブランド物ばかりを置いてありまして、何だか空港ではなくてデパートに来ているような状況なんですけれども。あと、端のところちょこちょこ自分の国の食べ物やまたはくだもの、そしてオトップという私は非常にすてきだなと思っていたのが一村一品運動の品物がずっと置いてあるのですけれども、前の空港のほうが何か市場のような空港で、タイの文化が非常によく見えましたし、そのオトップの一村一品のところももっともっと巨大で、人が歩いたりすると、何かタイから帰っていくのがいやだなあと思わせるような、何となく後ろ髪引かれるような感じの空港だったのが、結局近代化し過ぎてしまって、どこの空港とも全く同じような状況になりましたので、できれば、成田や関西も含めてそうですね、来られた方々が、もうちょっと長く日本にいたいな、もう一度戻ってきたいなというふうなイメージをちゃんと醸し出すように、やはり空港のイメージメイキングというソフトな部分というところも、もっとこれからも頑張っていたいただきたいなと思います。

●委員

今日の朝刊を見ていましたら、日産が今、非常に人気がないという。短期のコミットメントに終始してきて、それで成功していたときはいいんだけど、一方で、投資家からの不安材料は、長期のビジョンが見えないとか、長期の戦略が見えないというところにあるというのが出ていまして、まさにこれだと思いました。今回の答申内容は、私は大変素晴らしい内容だと思うんです。特に、拠点空港の国と空港会社が対となる将来のビジョンと計画づくり。それを今後、地方空港等に対しても検討を進めていこうとされているわけです。まさにそういう意味でも、国民が長く安心して、また、外国の方も便利に日本に来られるような空港整備、あるいは航空政策を引き続き進めていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

●分科会長

よろしく願いいたします。

そのほか、何かございますでしょうか。

今まで時間が足りないことが多かったものですから、薬が効き過ぎているのかもしれないが。

●委員

この答申に関することではないのですが、1点、技術屋として将来的なことを、希望みたいなものをお話しさせてください。

製造業的な観点からは、日本には飛行機の航空産業は残念ながらほとんどないことになっていきますので、それ以外のところで我々は勝負していかないといけない。そうすると、管制、保安システムとかのソフト的な運用とか、そういったサービスのところが売りにはなるのではないかというふうに思っていますが、それとともに、飛行場というのは、我々から見ると、とても魅力的なフィールドなんですね。実験をしたり、何か新しいことをテストしたり、例えばユビキタス成田空港とか、そういう何か新しいことをやっていくときのフィールドとして、とても魅力的なところですので、そういう場というものをぜひうまく使うことができると、さらに製造業的な視点からもこういう一つの出口を示すことができるのかなと考えておりますので、ぜひとも、国交省はフィールドを膨大にお持ちですから、ぜひそれを我々技術屋のためにも使っていただければと思っております。

●航空局長

今のお話ですが、本当に飛行場をうまくいろんな実験の場としても使えるといいなと思っておりますし、ユビキタスもそうですし、ITやなんかでいろいろやってみるのもおもしろいと思いますし、いろいろまたご指導いただきながらやりたいと思います。

それから、航空機産業のほうは、YS11が昔つくられて以来、ずっと国産機はなかったわけですが、三菱重工が中心になってMRJと言っていますが、三菱リージョナルジェットが、70席から90席ぐらいの小型ジェット機を開発できないかというトライをいまして、今、パリのエアショーがあるのですが、そこに、実物大のモックアップを持って行って、それである程度受注が見込めればやるぞというふうなことでやっています。これは、多分新素材やなんかは日本は得意なので、ドンガラをつくるのは多分相当優秀なはずなので、燃費のいい飛行機ができるんじゃないかと思っています。ただ、残念ながらエンジンはどこかよそのやつをつけるということで、そこまで至っていないというのは残念な

んですけれども、そんな状況であります。

それから〇〇委員がおっしゃった、まさに日本らしさの演出なりそういうのをどう見せるかというのも大変重要だと思っております、成田にしても関空にしても中部にしても、やっぱり着いたときに、ああ、日本に来たんだなというのが、どううまくお客さんにアピールできるか、あるいはいろんなお店にしても、そういう和のテーストをちゃんと生かしたようなものも入れられないかということで、各空港とも今、努力はしております。成田なんかは、到着のお客さんが通る通路なんかは、少しそういう演出ができないかみたいなこととか、お店もいろいろやっておりますし、それから、何か、秋葉原をテーマにした電気製品だとかいろいろ、日本というと別に和のものじゃなくて、そういう秋葉原みたいなイメージを中国の方なんかは多分お持ちなので、そういうショップも入れるとか、いろいろ工夫しておるようでありまして、引き続きまた頑張っていきたいと思っております。

#### ●航空企画調査室長

今の補足でございますけれども、〇〇委員から、成田空港とかで、ITとかユビキタスで使っていけということ、私、5年前にITの担当をしております、そのときに、私も一番盛り上がった時期でございます、成田空港をITのショーケースにしようということで、eエアポートということでやらせていただきました。当時は大分派手に打ち上げてやらせていただいております、その後も引き続き地道にやらせていただいておりますので、また引き続きご指導いただければと思っております。

#### ●委員

今、局長のほうから少しコメントがありましたけれども、航空機産業はかなり誤解されておりました、日本のメーカーが開発した航空機が売れていないということは事実であります、実はボーイングの飛行機の4割とか、そういう部分は日本のメーカーがつくっておりますので、現在、三菱重工も川重も富士重工も、航空機の人を非常な勢いで集めておいて、相当の産業になっていることをぜひご理解いただきたいと思えます。

#### ●委員

空港は確かにすごく便利になっていると今、思いますけれども、例えば私は羽田空港を使って関西に飛びますが、店は民営化されておりますのに、7時半になったら閉まってしまう店がたくさんあります。ああいう立地を得て公共的な意味がありいろいろサービスが期待されているのに、効果効率を考えたサービスしかされていないのではないかと。9時過ぎまで飛行機は飛んでいるにもかかわらず、そういうことが日常化されております。これからそういうことがどうなっていくのかと、きっちり見ていかないと、必ずしも利用者のサービスに資するような状況にならないのではないかとというようなことも感じます。そこを注意していきたいと思えます。

もう一つですけれども、〇〇委員はタイに行かれたのですが、たまたま、私はスペインに行き帰りにオランダでスキポール空港に立ち寄りました。思ったのは、空港がいろいろな表情を持っているということなんですね。例えば日本の空港でしたらほとんど椅子も均一で、同じようなものしかないわけですが、さまざまな椅子があつて、それがさまざまな人のニーズに当たっていると思うんです。そういうようなきめ細かさというのが、ある程度整備された段階で必要になってくるのではないかと。それがスキポール空港の魅力と明るさ、そういうものになっていると思うのです。機能があれば良いということではな

く、もう少し人の動きだとか、そこでのニーズに合った状況に空港がなっているのではないかと感じました。それと、ある一方でスペインの小さな空港に行くと、本当に何もない、ベンダーもないような、そういうような空港もあるわけです。そういう意味では、非常に飛行場と言っても使い分けられているなということもやっぱりわかりました。そういう意味では、これから日本の空港というの、空港だからどこも立派にということではなくて、いろんな差別化をしていくという、その時代に入ったと思います。その中で、国際空港というのは海外のお客さんを迎えるときに心地よさというものを提供できるようになるかということが非常に大事なのではないかというふうに思いました。

#### ●航空局長

スキポールは、私も3年前に審議官のときに見に行ったんですが、本当によくできてまして、あそこはワン・ターミナル・コンセプトと言って、滑走路は5本ぐらいあるんですが、ターミナルも1カ所にまとめてあって、その端から端まで20分ぐらいかかるんですが、ちゃんとそういう地図も、ここからここへ行くのにはどのぐらいかかるかというのが出ていますし、それから中には電気自動車で、おしゃれなお嬢さんが運転してくれるターミナル内タクシーみたいなやつもあって、3ユーロだったか何か、多分それぐらいで乗せてくれるとか、それから椅子も確かにおっしゃるように、乗り継ぎの客が少し横になれるような長椅子みたいなやつだとか、いろんなものが置いてあります。それから通路の一角でクイックマッサージをやっているとか、メディテーションルームといってお祈りの部屋もありまして、片方はキリスト教式のクロスがあるんですが、逆側のほうはメッカのほうに向いてまして、じゅうたんが置いてあって、回教徒の人はそっちを向いてやったださいみたいな、そんなのができています。それからもちろんカジノとかホテルもありますし、すごいよくできていました。

オランダは、ついにKLMはエアフランスに吸収合併されてしまったのですが、スキポールがあれば大丈夫だとスキポールの会社の人が出ていました。そんなことで、やっぱり国際空港にかける思いというのはすごいなと思って感心して帰ってきた次第です。

#### ●分科会長

ヨーロッパは、空港間競争がかなり厳しいという状況のようですが、日本も東アジアでそういう状況になりつつありますので、努力する必要があるのかなという気もいたします。

#### ●委員

やはり副題を「戦略的新空港政策ビジョン」とつけて、明確になりよかったなと思っております。まさしくビジョンをこの10回の分科会の中で語ってきたわけですし、こういうビジョンに基づくところの「整備運営に関する方策」なんだということが改めてはっきりしてきたと思います。空港政策というのは、国家ビジョンそのもの、国家戦略の要そのものであって、外交、通商、観光、産業、物流等ありとあらゆるものの一つの集結のシンボライズされたものがこの空港であります。

それと、先ほどから、空港の整備に対して、日本らしさと文化やいろいろなお話で、私も全く同感なんです。それに加えてですけれども、これからの整備のときに、物流の施設整備も文化やデザインを加味していただきたい。何か空港って本当に未来性があるって、モダンなところなんだけれども、物流のゾーンに行くと急に何か灰色っぽくて、何だかほこりっぽくて、デザイン的に、いわゆる旅客のところと比べると全く違うイメージになって

おりまして、何か非常に無機質です。もちろん物流現場というのは、お客様を迎えるのとは全然違うわけですが、しかし、そこでやっぱり多くの人が働いて、生き生きと、間違いないように安全にそういった物流施設の整備運営もお考えいただきたい。外国はそれこそ、物流ゾーンなんかに行くと、そんなにものすごくお金がかかっているわけではないんですが、非常にデザイン性があって、やはり建物のデザイン、色、そういったものが非常にうまく物流という無機質なゾーンなのに、そう感じさせない何かそういったうまい工夫がしてあります。これから成田も中部も関空も全部、それぞれの空港、物流の比重も非常に多いわけですので、整備のときにそういったところにも少し配慮ができるような物流ゾーンになっていくといいなと思って、そういうことを希望いたしております。

●航空局長

おっしゃるように、物流も大変大事な部分でありまして、我が航空局も遅ればせながら7月1日から航空物流室という専門の担当を置くことにいたしまして、その室長も今、いろいろ、民間人の活用も含めて検討しているところでありますけれども。ただ、なかなかどうしても、〇〇委員がおっしゃるように、物流の現場というのは、効率性重視みたいなことでできてしまっていますので、なかなか、いろいろデザインとかそこまで配慮できないところもあるのかもしれませんが、やはりきちっと安全かつ合理的に運べるようなシステムというものをこれからよく考えていく必要があるのかなと思っております。特に、去年日本航空の貨物機に乗って、私、香港に行ってきたんですけれども、香港のHACTLという世界最大の貨物ターミナルがありまして、それなんかは、1,000億もかけてつくったばかりのターミナルで、その一番上のほうに社長室があるんですが、そこからガラス越しに中の作業の状況が全部見えるようになっている。お客様をそこへばっと案内して見せてどうだっていばっていらして、なかなかすごいなと思いましたが、日本もそういう物流のほうにももう少しお金をかけられるような時代が早くくればいいなと思っております。

●委員

たまたま飛行場部長が私からちょうど正面におかけになっていらっしゃいますので申し上げますけれども、この分科会で、戦略的とか、新空港政策だとか、ビジョンだとか、将来の夢の実現に向けて議論しているわりに、担当の職場名が飛行場部というのは、何ともがっくりくるようなことでございまして、もちろんお役所の職場の名称というのは、法律改正も必要なんじゃないかと思うんですけれども、できるだけ可及的速やかにこの名称も変えていただかないと。何か飛行場という、私も小学生のころは飛行場と呼んでおりましたが、今の小学生はもう全然そういう言葉自体知らないんじゃないかと思えます。現実に合わせて名称に変えていただければと思います。

●航空局長

おっしゃるとおりでありまして、ずっと議論はあったんですが、なかなか名前だけ変えるというのもあれなんで、さぼっていたというところがありまして、来年度の組織要求に向けて、飛行場部という名前だけじゃなくて、中の課の体制のあり方なんかも含めて、今、検討を始めておるところでございますので、またよろしく願いいたします。

●委員

今さら言ってもしょうがないということで、言おうかどうか迷っていたのですが、

まあ、そのとおりだと思うところもあるので言いたいと思います。

4ページの下から4行目か5行目あたりに、また、という表現があって、「また、今後の空港等の整備に当たっては、現下の厳しい財政事情に鑑み、選択と集中により真に必要な事業に投資を重点化していく」、これはそのとおりだと思うんですが、その後を読んでもみますと、国際大事、地方大事、安全大事、何とか大事、みんな大事と書いてあるんですね。何が選択と集中かというのが、実はよくわからなくなってくるんです、この中で。だからこれはやはり、そのとおりだと、みんな大事なんですよね、どれが欠けてもいけないというのは大事なんです、今後は少なくともその順番をきちっとしていただきたいと思っているんです。みんな確かにすべてやらなきゃいけないんだらうと思うんですが、順番が間違えといけない。例えば、伊丹が騒音で忙しいということで関空をつくったけれども伊丹が残ってしまって、また神戸までやるという、何となく我々納得できないんです。そういう順番をしっかりと、確かにみんな大事なんだけれども、やはり順番をしっかりと順序よく、そういうことが起こらないようにやっていただきたいなと思うんです。むしろぼつぼつやっているというのではなくて、しっかりと順番を決めて、重点的に物事を進めていただけたらというふうに思っています。

●分科会長

実際にやるときは、必ずそういうことにならうかと思しますので、こういう一般的、抽象的なレベルでこれが一番よというのはなかなか難しいかと思いますが、実際の選択は厳しい選択を迫られるということであらうかと思しますので、よろしく願いいたします。

そのほか何かございますでしょうか。

よろしゅうございますか。事務局のほうから早く終わってもいいと言われておりますので、もし特にとということがなければ、このあたりにさせていただきたいと思います。

答申案につきましては、修正のご提案がなかったというふうに私は解釈をしておりますので、この案をもちまして最終的な答申とさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

●分科会長

それでは、これをもって航空分科会の答申とさせていただきたいと思います。

これで、本日の予定の議事は終わりということになります。

最後に、航空局長のほうからごあいさつがございますので、よろしく願いいたします。

●航空局長

本当に昨年の秋以降、10回にわたりまして、精力的なご審議を賜りましてありがとうございました。我々もなかなか大変だったんですけども、ちょうどマスコミ、メディアの方々にも公開の場でやっておるということで、そういう中で大変貴重ないろんなご意見をいただきまして、うまいぐあいに答申をまとめさせていただいたと思っております。

まだこれが終わりということではなくて、我々にとりましてはまたこれから新しい仕事のスタートだと思っております。先ほど松本室長のほうから決意表明は局長がやれという話だったので、本当にこの「おわりに」のところにありますように、これからちゃんとス

ピード感を持って、この答申でいろいろまとめていただいた内容をどんどん実行していかなければいかんなどと思っておる次第でございます。特に、一番最後のほうにあります制度の問題につきましては、これから法律改正も含めまして、いろいろ難しい仕事が続いていると思っております。空港整備法という法律がありまして、いまやだんだん整備の時代ではなくなってくるのではないかとと思っておりますけれども、この法律は、我々が入った若いころなんかは絶対いじっちゃいかん、これはいじるとヤバイぞというふうに教えられた法律でありまして、ずっとあまり手をつけずにやってまいったんですけれども、まあ、そういうのもひるむことなく、よく検討して、これからどういう形の制度にしたらいいかというのを考えてまいりたいと思っております。

本当に、累計すると、この審議時間は21時間30分になるらしいのですが、長時間にわたりましてご審議いただきましてありがとうございます。また引き続きそういうこれからの制度設計なり我々の施策の実施につきまして、また先生方のご支援、ご協力を賜ればと思ふ次第であります。本当にどうもありがとうございました。

●分科会長

どうもありがとうございました。

それでは、最後に事務局のほうから何かご連絡がありますか。

●航空企画調査室長

本日いただきました答申につきましては、この後本日18時に金本分科会長より国土交通大臣に対して答申をお渡しいただく予定となっております。

●分科会長

それでは、分科会はこれもちまして終了とさせていただきます。どうも大変長い間ありがとうございました。

閉 会